

士和湖星空キャンプ場

青森県士和田市大学奥瀬学字樽部士和田市10
車でお越しの方▶東北自動車道・士和田ICより
車で約00分。八戸駅より約1時間半。七戸士和
田駅より約1時間00分。青森駅より約20時間。

電話：0191-00-0000

FAX：0000-00-0000

E-mail：xxxxxxx@xmail.ocm

HP：http://www.xxxxxx.c.m

▶流れたあとだと言われたりしていた、このぼんやりと白いものがほんとは何かと承知ですか先生は、大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなところを指しながら、みんなに問いかけました。



の小さな星に見えるのです。ジョバンニさんそうでしょう」

ジョバンニはまっ赤になつてうなずきました。けれどいつかジョバンニの眼のなかには涙がいつぱいになりました。そうだ僕は知っていたのだ、もちろんカムパネルラも知っている、それはいつかカムパネルラのお父さんの博士のうでカムパネルラといっしょに読んだ雑誌のなかにあったのだ。それどころでなくカムパネルラは、その雑誌を読むと、すぐお父さんの書斎から巨きな本をもつてきて、ぎんがというところをひろげ、まっ黒な頁いつぱいに白に点々のある美しい写真を二人でいつまでも見たのでした。それをカムパネルラが忘れるはずもなかったのに、すぐに返事をしなかったのは、このごろよく朝にも午後にも仕事がつらく、学校に出て「もうみんなともはきはき遊ばず、カムパネルラともあんまり物を言わないようになったので、カムパネルラがそれを知つてきどくがつてわざと返事をしなかったのだ、そう考えるとたまらないほど、じぶんもカムパネルラもあわれなような気がするのです。先生はまた言いました。

「ですからもしもこの天の川がほんとうに川だと考えるなら、その一つ一つの小さな星はみんなその川のその砂や砂利の粒にもあたるわけです。またこれを巨きな乳の流れと考えるなら、もっと天の川とよく似ています。つまりその星はみな、乳のなかにまるで細かにうかんでいる脂肪の球に

もあたるのです。そんなら何がその川の水にあたるかと言いますと、それは真空という光をあつて運んで伝えるもので、太陽や地球もやつぱりそのなかに浮かんでいるのです。つまりは私どもも天の川の水のなかに棲んでいるわけです。そしてその天の川の水のなかから四方を見ると、ちょうど水が深いほど青く見えるように、天の川の底の深く遠いところほど星がたくさん集まつて見え、したがって白くぼんやり見えるのです。この模型を「ごらんなさい」先生は中にたくさん光る砂のつぶのはいった大きな面の凸レンズを指しました。

光る粒すなわち星

「天の川の形はちようどこんななのです。このいちいちの光るつがみんな私どもの太陽と同じようにじぶんで光っている星だと考えます。私どもの太陽がこのぼんやりにあつて地球がそのすぐ近くにあるとします。みなさんは夜にこの真中に立つてこのレンズの中を見まわすとしてごらんなさい。こつちの方はレンズが薄いのでわづかの光る粒すなわち星しか見えないう。こつちやこつちの方はガラスが厚いので、光る粒すなわち星がたくさん見えその遠いのはばつと白く見えるという、これがつまり今日の銀河の図なのです。そんならこのレンズの大きさがどれくらいあるか、またその中のさざまの星についてはもう時間ですから、この次の理科の時間に

ジョバンニが学校の門を出るとき、同じ組の七、八人は家へ帰らずカムパネルラを園の中に集まっていた。こしらえて川へ流す。瓜を取りに行く相談しつたのです。元気に手をあげたカムパネルラが、やはりもしも立ち上がったままやはり答えがでませんでした。



空と湖

のキャンプ場

士和湖星空キャンプ場

空と湖と星空と焚き火と

「ではみなさんは、そういうふうに着せど言われたり、乳の流れたあとと言われたりしていた、このぼんやりと白いものがほんとは何かと承知ですか」先生は、黒板につるした大きな黒い星座の図の、から下へ白くけぶった銀河帯のようところを指しながら、みんなに問いかけました。

カムパネルラが手をあげました。それから四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

がりましたが、立つてみるともうはつきりとそれを答えることができないのです。

ザネリが前席からふりかえって、ジョバンニを見てくすくすわらいました。ジョバンニはもうどきまぎしてまっ赤になつてしまいました。先生がまた言いました。「大きな望遠鏡で銀河をよく調べると銀河はだいたい何でしょう」やつぱり星だとジョバンニは思いましたが、こんどもすぐに答えることができませんでした。先生はしばらく困つたようすでしたが、眼をカムパネルラの方へ向け、「ではカムパネルラさん」と名指しました。するとあんなに元気に手をあげたカムパネルラが、やはりもしも立ち上がったままやはり答えがでませんでした。

先生は意外なようにしばらくじつとカムパネルラを見ていましたが、急いで、「では、よし」と言いながら、自分で星図を指しました。このぼんやりと銀河を太

お話しします。で、今日はその銀河のお祭りなのです。みなさんは外へでよくそらをごらんください。ではここまでです。本やノートをおしなさい」

そして教室じゅうはしばらく机の蓋をあけたりしめたり本を重ねたりする音がいつぱいでしたが、あななくみんなはきちんと立つて礼をすると教室を出ました。

ジョバンニが学校の門を出るとき、同じ組の七、八人は家へ帰らずカムパネルラを